



宗賀支所

塩尻の特色を生かした
まちづくり



宗賀支所 (7月7日)

問 「山のお宝ステーション事業」をより具体的に説明を
して欲しい。

答 産学官で進めている信州Fパワープロジェクト関連の事業。自伐林家が搬出した間伐材を集積基地で買い取る事業で、塩尻市振興公社に委託したもの。まだ、明確な計画の提出はなく、年次の計画が提出されると思う。

問 伐採は素人でもできるが、山奥から搬出するのが問題だ。谷の奥の山から、所有者の判明しない間伐材をどうやって搬出するのか。また、倒木は
ねじれている、流木は石が絡

んでいるなどで使用できないが、持ち込めるか。山間地の整備が進むのは良いことだ。

答 伐採は事前に申告した山のみで、事前登録された者しか持ち込めない。また、川の流木は持ち込めない。周知徹底のために、事前説明会を予定している。

問 「信州しおじりふるさと寄付金制度」をより具体的に説明して欲しい。

答 例えば、1万円の寄付のうち、確定申告すれば、納付金の2千円以上の部分が税控除される。それに、地元産品が送り届けられるという制度。塩尻市では、ワインなどのまごころ特産品セットや市内博物館の無料入場券や広報しおじり1年分が贈られる。

問 特色ある教育活動事業交付金として、各校に20万円配布したが効果はどうか。

答 上限200万円である。榎川中学校では被災地見学、他では農業体験・吹奏楽部の地域公演会などに使われている。
問 200万円は一過性のものか。
答 2年間継続の予定である。ただし、良いことなので減額でも継続するように働きかけていく。

市民交流センター

安心して暮らせる
福祉のまちづくり

問 デジタル移動系防災行政無線を整備することにより、改善される内容について説明してほしい。

答 統制局、基地局、中継所等を設置することにより、感度が良くなる。さらに、関係機関の連携が良くなると共に、地域の情報が市の本部に上がってくる。

問 防災行政無線の聞き取りにくい場所があるが、対策はどうなっているのか。

答 屋内装置の設置をお願いしている。

問 塩尻市において手話言語条例を制定してほしい。

答 現在、県レベルで制定に向けての動きが出てきている。
答 条例が制定されることにより、環境整備が進むと考えている。

問 介護予防事業が地区においてくるようだがとも対応できない。市として、なんらかの手立てをしてほしい。
答 制度変更した地域包括ケアシステムが始まり、一人ひとりに適したサービスを探り



市民交流センター (7月8日)

始めている。要望については行政側にしっかり伝える。

問 信州Fパワープロジェクトについて、道路整備はどうなっているのか。

答 住民の意見を聞いて市と県で道路改良を進めている。
問 こうした事業は当初より予算が膨らむがどうか。

答 事業に関わる資金は全て征矢野建材が持つので、市からの持ち出しはない。

問 平成27年度から操業を開始することだが間に合うか。

答 製材工場は27年度に稼働する予定だ。発電プラントの稼働は遅れると聞いている。